

# ネピアアテンダー ケア通信 Vol.24

発行元: 王子ネピア株式会社  
ケアサポート事業本部  
東京都中央区銀座5-12-8  
王子ホールディングス 1号館  
編集・制作: 株式会社ジェイ・キャスト  
発行人: 取締役 ケアサポート事業本部長 山下千晶  
発行日: 平成30年9月15日



## 介護業界の現在

「銀木犀浦安」の玄関を  
一歩入ると、奥の部屋から  
リズムカルな音楽が聞こえてきた。若い女性が  
次々と入ってくる。



株式会社シルバーウッド社長  
下河原忠道氏  
(しもがわら・ただみち)

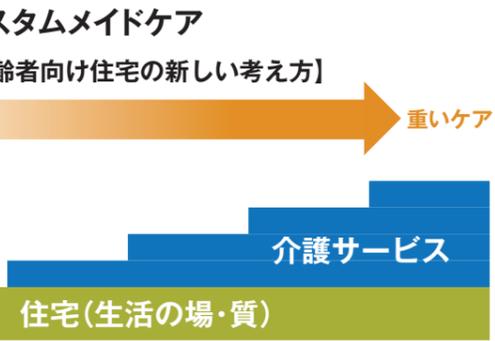
1971年生。2000年、建築資材メーカー・  
シルバーウッドを設立。11年、自社工法で  
建築した「銀木犀浦」を鎌ヶ谷で運営開始。  
首都圏に9カ所あるサ高住はほぼ満室。  
グループホームも2カ所。

サービス付き高齢者向け住宅の平均看取り率は17%。それに対し首都圏に9カ所あるサ高住「銀木犀浦」では76%。「銀木犀浦」で、新しい最期のあり方を模索する。ともに、介護事業を「から問い直す」下河原忠道(シルバーウッド)社長に話を聞いた。  
(文:西所正道)

### 最期まで地域で生きる

#### 「施設」ではなく「うち」でありたい

「あでは、認知症のある人がお茶を出してくれたことに衝撃を受けた。」  
「以来、入居者の9割は軽度認知障害(MCI)を含む認知症のある方ですが、鍵はかけず、できることはやってみよう方針にしました。すると入居者が銀座に買い物に出かけたり、ダンス教室に通ったり、アクティブになりました」  
認知症のある人の物の見え方や不安なことを、バーチャルリアリティ(VR)で見られる動画も制作した。車から降りる際、ビルの屋上にいるように感じたり、買い物をして硬貨を探そうにも見えにくい……。介護職の参考になるだけでなく、一般の人の認知症への理解が進めば、地域で住みやすくなると思うのだ。



生活の場・質を変えずに  
必要なケアに応じて柔軟に対応

「地域の人がたくさん出入りします。誰が入居者で誰が地域の人かわからなくなるくらい。だってここは『うち』だから。施設じゃないので」  
住宅業界からの参入である。始めてしばらくした頃、介護のあり方に疑問を感じ、北欧の施設や本欄にも登場したあおいけあなどを視察。あおい

#### 銀木犀浦のカスタムメイドケア

【サービス付き高齢者向け住宅の新しい考え方】

「夢は高齢者住宅をやめることです。高齢者が一般の人と一緒に暮らせる長屋のような住宅が理想。みんなが助け合って暮らせる、そんな愛がふれる住宅をつくりたい。」

#### 看取りの大切さを 元看護師に教わる

下河原さんに看取りの大切さを教えたのは、開業間もなく入居した元看護師。がんになり余命3カ月のとき「私はここで死にます」と言われた。

### 注目のトピックス

**認知症の人 介護サービス利用中に「働く」OK**  
認知症の人などが介護サービス利用中に、事業所外でボランティア的に働き、その対価として謝礼を受け取ることが可能だと、厚生労働省が自治体や事業所に通知した。若年性認知症の人などが生きがいをもって暮らしていくことを支援するのが狙い。  
2018/8/23 産経ニュース

**介護職へのハラスメント 全国実態調査実施へ**  
厚生労働省は、介護サービス従事者に対する利用者や家族からのハラスメントについて、今年度中に全国規模の実態調査を行い、事業者への対応マニュアルを作成することを決めた。  
2018/8/24 シルバー新報

### 脳のアンチエイジング

#### 「色」の名前を読み上げよう

**問題** 左上から順に声に出して読みましょう。ただし「漢字」を読むのではなく、背景の「色」が何色かを声に出します。例えば「赤」と書かれていても、背景が青色なら、「あお」と読み上げます。20秒以内に、できるだけ間違わないように読んでみましょう。

赤	青	黄	赤	青
緑	赤	青	緑	白
黄	赤	黄	白	赤

愛知県春日井市の特別養護老人ホーム「春日井樹の里」は、特養100床、ショートステイ20床でユニットケアを行っています。ここでフロアリーダーを務めるのが関口峻右さん。勤続11年目のベテラン介護士です。「事務仕事より、自由に体を動かしながら働くほうが性に合っています。ご利用者様の『ありがとう』の言葉と福祉への貢献がやりがい」と話します。



エネルギッシュな関口さん

「自分自身がいきいきと楽しくできることが大事です。そうすると、皆さんにも楽しんでもらえます」  
「名前が覚えなくても、顔だけ覚えて」と、伝える関口さん。「顔は知ってる」と言ってもらえるだけで嬉しい笑顔。

「名前は覚えなくても、顔だけ覚えて」と、伝える関口さん。「顔は知ってる」と言ってもらえるだけで嬉しい笑顔。



足踏みマシンや黒電話、ラジオなどが展示された昭和のコーナーにて

こんにちは、ネピアです。職場のお話、聞かせてください。  
**究極の人づきあいの仕事です**  
◎特別養護老人ホーム春日井樹の里愛知県春日井市  
介護福祉士 関口峻右さん

#### 看取りにも注力

「ケアは、究極の人づきあいの仕事です」と、誇らしげに微笑みます。

取っています。身近に接している方が亡くなるのは悲しい。思い出が走馬灯のようによぎり、何か反省はありつつも、人の死に向き合う。それも樹の里の特徴です」  
最期が近づくと、口にできるものはないか、のど越しのいいものを少しでも食べてほしい。試行錯誤を重ねながら、看取りケアを続けています。

# 自分も入りたいと思える施設を!



社会福祉法人樹の里は、愛知県春日井市と瀬戸市を拠点に、高齢者福祉施設を運営しています。今年4月にオープンしたのが、地域密着型特別養護老人ホーム「ルフレ樹の里」。理事長の木野村好己氏が、王子ネピア取締役ケアサポート事業本部長の山下千晶を迎えてくれました。



社会福祉法人樹の里  
理事長

木野村 好己氏

木野村 ひとりあるつくりで、一人あたりの専有面積は愛知県一だと思えます。本職が建設業なので、外壁材や屋根瓦などはスペインから輸入し、世界を見てきた方にも満足していただける施設を作りたかった。私自身も世界を見て回るのが好きです。自分も最後はここに入りたい(笑)。

山下 建物の中は明るく、中庭もあり、まるで地中海リゾートのような気分になりますね。

木野村 そうですね。施設は、春井市が障がい者施設や高齢者福祉施設を含む約1万坪の福祉村を構想していたのです。その中の1500坪が、「春日井市」の循環を考えた施設です。障がい者が高齢者施設や病院の食事を作って配送する、給食事業を行うセントラルキッチンを活用を申し出ました。



王子ネピア株式会社  
取締役ケアサポート事業本部長  
山下 千晶

山下 障がい者の自立支援につながる、素晴らしいアイデアです。

木野村 セントラルキITCHENは就労継続支援事業所で、近くまで働く人が暮らせるグループ

木野村 2008年に特養春日井樹の里をオープンしました。このときは、春日井市が障がい者施設や高齢者福祉施設を含む約1万坪の福祉村を構想していたのです。その中の1500坪が、「春日井市」の循環を考えた施設です。障がい者が高齢者施設や病院の食事を作って配送する、給食事業を行うセントラルキッチンを活用を申し出ました。

山下 障がい者の自立支援につながる、素晴らしいアイデアです。

木野村 セントラルキITCHENは就労継続支援事業所で、近くまで働く人が暮らせるグループ

木野村 ゆとりのあるつくりで、一人あたりの専有面積は愛知県一だと思えます。本職が建設業なので、外壁材や屋根瓦などはスペインから輸入し、世界を見てきた方にも満足していただける施設を作りたかった。私自身も世界を見て回るのが好きです。自分も最後はここに入りたい(笑)。

山下 春日井市での展開をお聞かせください。

木野村 2008年に特養春日井樹の里をオープンしました。このときは、春日井市が障がい者施設や高齢者福祉施設を含む約1万坪の福祉村を構想していたのです。その中の1500坪が、「春日井市」の循環を考えた施設です。障がい者が高齢者施設や病院の食事を作って配送する、給食事業を行うセントラルキッチンを活用を申し出ました。

山下 障がい者の自立支援につながる、素晴らしいアイデアです。

木野村 セントラルキITCHENは就労継続支援事業所で、近くまで働く人が暮らせるグループ

木野村 ゆとりのあるつくりで、一人あたりの専有面積は愛知県一だと思えます。本職が建設業なので、外壁材や屋根瓦などはスペインから輸入し、世界を見てきた方にも満足していただける施設を作りたかった。私自身も世界を見て回るのが好きです。自分も最後はここに入りたい(笑)。

山下 春日井市での展開をお聞かせください。

木野村 2008年に特養春日井樹の里をオープンしました。このときは、春日井市が障がい者施設や高齢者福祉施設を含む約1万坪の福祉村を構想していたのです。その中の1500坪が、「春日井市」の循環を考えた施設です。障がい者が高齢者施設や病院の食事を作って配送する、給食事業を行うセントラルキッチンを活用を申し出ました。

山下 障がい者の自立支援につながる、素晴らしいアイデアです。

木野村 セントラルキITCHENは就労継続支援事業所で、近くまで働く人が暮らせるグループ



地域密着型特養「ルフレ樹の里」の前で

## テnderサポート便り

共創介護の現場から

vol.15

## 質の高い介護サービスに向けて

王子ネピア東京支店横浜営業所 高岡 葉

東京海上日動ベターライフサービス株式会社は、介護付有料老人ホームや在宅介護サービス、サービス付き高齢者向け住宅の運営などを行う東京海上グループの総合介護事業会社です。経営理念に「品質の高い介護サービスを提供し、心豊かに笑顔で暮らせる社会の実現に貢献します。」を掲げ、人材育成にも力を入れています。

ネピアが同社の新入職員向けのおむつ研修を務めて4年目。今年度も、おむつの当て方や排泄知識などを講義した後、経営理念に照らして「心豊かに笑顔で暮らすために必要な排泄ケア」とは何かをテーマに、グループワークを行いました。自分が介護される立場ならどう感じるか、どのように接してほしいのかなど真剣に議論。おむつの技術も大切ですが、お客様が不快な思いをしないように、プライバシーを守る環境整備や一人ひとりに合わせた介助の大切さを確認しました。参加された皆さんの意見をご紹介します。

- 排泄ケアには、100人いれば100人のやり方があると感じました。日々の観察力もとても大切だと思います。技術だけでなく、相手の様子を都度見ながら対応したいと感じました。
- どんな排泄介助をしてもらえればより楽に感じるか、負担をかけない介助方法など、本人に関わってみないと分からないことがたくさん出てくるので、常にその方のことを考えて介助することが大事だと分かった。
- 入居者の方の排泄に伴う小さな変化に気づける敏感さも求められます。その重要性をよく理解し把握しているスタッフ

でありたいです。一人ひとりの習慣やクセを知り、適切な声掛けをしていきます。

新入社員向け勉強会のほかにも、アフターフォローを行っています。具体的には各事業所の排泄担当者とネピアカウンセラーが協力させていただきながら、ご利用者の尊厳を守り、快適かつ適正な排泄ケアと一緒に考え、年に数回最適なおむつの勉強会を実施しております。

### 【東京海上日動ベターライフサービスの小林様から】

いつもご担当の西田様、高岡様、金子様と相談しながら、現場の声を踏まえ研修を検討しています。相手の立場になって考える、体験するというご利用者様中心の考えのもと、学びを深め合うことができている。現場に出てもフォローアップしていただけており、大変感謝しています。

左:東京海上日動ベターライフサービスの皆様。前列右が小林様。右:新入職員向け勉強会



10人のプロが  
笑かします

全日本おむつ団  
all nippon omutsu dan

## ボランティア演芸会

佐賀県上峰町 老人福祉センター おたっしや館

王子ネピアでは、東西の有志落語家・エンターテイナー10名による「全日本おむつ団・ボランティア演芸会」を支援しています。

8月22日、おたっしや館「かみみねデイサービスセンター」にて、桂三金師匠による「ボランティア演芸会」を開催。熊本震災復興イベントで鶴笑師匠のボランティア活動を知り、

HPからのご応募でした。当日、満員の客席は施設職員様による手作りのポスターや歓迎ウチワで三金師匠を迎え、ご当地ネタを織り交ぜた小唄から「時うどん」で落語を満喫、締めはお客様との掛け合いのバルーンパフォーマンス。終演後は写真撮影・握手会、最後まで笑いの絶えないアットホームな演芸会となりました。

